

# 未来



全労協・郵政産業労働者  
ユニオン長崎中野支部  
機関紙「みらい」  
NO. 4443  
24年4月30日(火)  
Tel・Fax 095-828-1953  
文責 支部書記長

# 第95回たたかうメーデーに参加を

おはようございます。

明日、五月一日は第九回メーデーです。時間のある方はぜひ九時からの地区メーデー（五島町公園）に参加しましょう。

メーデーは労働者の祭典でたたかうメーデーといわれますが、その歴史は古く一三八年前の一八八六年のアメリカのシカゴにあります。シカゴといえばプロ野球横浜ベイスターズから移籍した今永昇太や元広島鈴木誠也がいるアメリカ大リーグのシカゴ・カブスの本拠地です。

このシカゴの労働者が厳しいたたかうの末、八時間労働制を勝ち取ったことから、世界的にはこ



の日をメーデーの起源とし、続く一八九〇年の五月一日に、欧米の労働者が国際的なメーデーをそろってたたかいます。

日本では一九二〇年（大正九）年五月二日（日曜日）に東京上野公園に一万人の労働者が集まり、二キロのデモ行進を行ったことが始まりです。当時メーデーは無論、労働運動も許され

ない時代でしたので、弾圧も厳しく、逮捕覚悟の集まりでしたので、たたかうメーデーでした。

このメーデー開催の背景には、大正デモクラシー＝民主化、改革の要求や低賃金、長時間労働からの解放、八時間労働要求の争議が頻発した年があります。

青木虹二の「日労働運動史年表」によれば、この一年間だけでも二百二十一件の労働



開催県も全国二十九の都道府県と幅広く、長崎県も三件たたかわれています。もちろん郵便局関係も六件の争議が起きています。こうした労働者の参加が一気に広がった歴史がメーデー開催の背景にあります。

ところが一九三五（昭和一〇）年の第十六回を最後にメーデーは終わります。その原因は、翌年の二月の二・二六事件＝軍のクーデターにより、全国に戒厳令が敷かれ、



それを口実にメーデー禁止令が出され、日本は戦争の時代へと突入したのです。そして一九四五（昭和二〇）年の敗戦後、翌年の五月一日、第十七回メーデーが復活します。このことを「社会労働運動大年表」では次に書きます。

復活メーデーに全国で二百万人が、東京では五十万人が参加し、会場の皇居前広場では「働けるだけ食わせる」などのスローガンを採択し、わが日本の労働者階級は十一年ぶりにメーデーに参加した。今日のメーデーこそ、日本で初めての大きさと、自由に輝く歴史のメーデーである。：われわれは政府をとりかえなくてはならないと、闘争宣言を出して、戦後初のメーデーをたたかいました。



え、今日の労働運動を懸命にたたかう郵政ユニオンは、明日、地区メーデーと県労連メーデーに参加し、仲間の団結を確認しあいます。ともにたたかきましょう。

第九十五回メーデー万歳、たたかう労働者の団結を。

期間雇用パート労働者の皆さん！ 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。  
1集-海江田, 2集-向井, 3集-山田, 支部・分会の役員へ。

郵政ユニオン長崎のホームページはこちら



仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員希望者全員が正社員化を。

めげず、均等待遇、なげない差別！

ユニオンは労基法裁判に勝利するぞ！